

村岡の雨乞い

吉岡公民館長 五十嵐勝二

私の散歩コースの荒川右岸村岡地内河川敷境に九頭龍大権現という小さな石の祠が祀られている。

昔話として聞いてはいたが最近まで忘れていた事柄の一つである。当市の荒川沿いの村々は、洪水や早魃のために大きな被害を蒙ってきた。困った時の神頼み、この石宮さまが、村人の守り神であったのである。それが平穏な時代が続くと人々の口にのぼる事なく草に埋もれていらっしやる。

この神は長野県水内郡戸隠神社の摂社九頭龍神社のことで、もとは九頭龍大権現と称し龍神と呼ばれることから水の神として農民の信仰は厚かった。また龍神の胴の長いことから堤防の長いことにも通じ洪水を鎮め、堤防を守る神として祀られてきた。

特に村岡地先の九頭龍さまの雨乞いは、つとに有名であった。

村人は早魃が続くと堤下の石宮を堤上に抱え上げ、注連縄を張り灯籠を掲げ、御神酒を供え村中総出で祈祷をして、その靈験は石宮に水をかけただけでも三日以内には必ず雨が降ったという。今度は降りすぎて洪水となり、仕方なく堤上に上げた石宮を堤下にころがし落として雨を絶ったという。

世の中は、有人宇宙施設「きぼう」の船内実験棟で星出飛行士の活躍の様子が報じられている時代。この小さな石宮を知らない人が多くなった今でも自然の猛威は、時々襲ってくる。科学の進歩があっても力の及ばない自然の力。昨今の世界の各地を襲っている地震等を見るとき、如何にも無力な人間で社会である。



(熊谷市公連だより 第5号 平成20年より)